

事案名	東広島市の事案（広島県34-5）
分類	生産・保有 現在の状況
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「瓦斯二関スル綴」(日付なし)[1] ・「化学兵器ノ製造ニ関スル事項」(作成主体、作成年月日は不明)[2] ・「化学兵器ノ補給等ニ関スル事項」(作成主体、作成年月日は不明)[3] ・Intelligence Report on Japanese Chemical Warfare Volume [4] ・「終戦時各補給廠ノ化学戦弾薬ノ状況」(作成主体、作成年月日は不明)[5] ・「化学戦弾薬及器材調査表」(作成主体、作成年月日は不明)[6] ・23. CG Sixth Army Japanese Toxic Ammunitions in Omine / Okunoshima 2-DEC-45 / 15-NOV-45 [7] ・「民間会社社史」[8] ・Disposal Report Chemical Munitions :Operetion Lewisite, 1946 [9] ・「旧軍毒ガス弾等の全国調査」のフォローアップ調査について[10]
資料内容概要	<p>広島県東広島市八本松には、毒ガス弾等の保有地点として、広島陸軍兵器補給廠（八本松分廠）と第11海軍航空廠があり、終戦時、毒ガス弾等が保有されていた。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島県八本松には、100mmあか弾1, 198発と100mmきい弾1, 796発が保有されていた[1]。 ・広島県八本松には、91式10榴用瓦斯弾2, 214発が保有されていた[2][3]。 ・終戦時に、広島県八本松には、各種きい弾1, 796発、各種きい弾1, 198個が保有されていた。第11海軍航空廠（八本松・切串・川上）には、60kgイペリット爆弾11, 344発が保有されていた[4]。 ・終戦時に、広島陸軍兵器補給廠八本松分廠91式10榴あ弾1, 198発、91式10榴い弾1, 796発が保有されていた[5][6]。 ・終戦時、八本松には、60kgイペリット爆弾638発が残存されていた[7]。なお、「占領軍が進める毒物処理のはじめに、忠海兵器補給廠、大三島、阿波島、米光、切串、内海などに散在する全ての毒物を大久野島に集積した」と記載されている[8]。また、切串及びコヒノウラ（安浦町）からマス

タード弾 8,000 発を船で、川上からマスタード弾 7,500 発を列車及び船で大久野島へ運んだことを、昭和 21 年 7 月 1 日に報告している〔9〕。

現在の状況

- ・加茂郡川上村は、現在の東広島市八本松町の一部である。また、現在、川上地区には、米軍の弾薬庫施設が存在する〔10〕。